

引用文献

- Abir K. Bekhet, Jaclene A. Zauszniewski, Wagdy E. Nakhla. (2009). Reasons for Relocation to Retirement Communities; A Qualitative Study. *Western Journal of Nursing Research*. Vol.31, No.4, 462-479.
- 赤須大典, 木藤恒夫 (2011). 集団表象と自己表象の一致性と集団同一視との関係, 久留米大学心理学研究. 10. 31-38.
- 秋山美紀 (2013). コミュニティヘルスのある社会へ 「つながり」が生み出す「いのち」の輪. 東京: 岩波書店.
- Atchley, RC / 牧野拓司 (訳). 退職の社会学, 東洋経済新報社, 1979.
- 青木由美恵, Tony Ghaye, Sue Lillyman (2011). 高齢者における地域活動に対するリフレクシオンの試み. *横浜看護学雑誌*, 4 (1), 78-85.
- 青山美保, 井手喜子, 新志春菜, 新裕美, 池田枝里子, 池本佳子, 大屋亜美, 川添千穂, 川西志保, 川村幸子, 吾郷美奈江恵(2010). 地域活動を“いきいき”として支えている人の要因. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要. 4, 129-136.
- 鮑戸弘(1976). 地域意識の基本構造—地域意識研究への一つのアプローチ, 小菅稔 (編・著). 都市化に基づく地域社会の構造変化. さいたま出版会. 250-271.
- Barbara Resnick (2003). Health Promotion Practices of Older Adults: Model Testing. *Public Health Nursing*, Vol.20 No.1, 2-12.
- Barbara Resnick, Christopher D'Adamo (2011). Factors Associated with Exercise Among Older Adults in a Continuing Care Retirement Community. *Rehabilitation Nursing*. Vol.36, No.2, 47-53.
- Ben heaven, Laura J.E.Brown, Martin White, Linda Errington, John C. Marhers, Suzanne Moffatt. (2013). Supporting Well-Being in Retirement through Meaningful Social Roles: Systematic Review of Intervention Studies. *Milbank Quarterly* Vol.91, (2). 222-287.
- Blumer, H. (1991). シンボリック相互作用論・パースペクティヴと方法. (後藤将之訳). 東京: 勁草書房. (原典出版 1969)
- Butterworth P, Gill SC, Rodgers B, Anstey KJ, Villamil E, Melzer D. (2006). Retirement and mental health: analysis of the Australian national survey of mental health and well-being. *Soc Sci Med*. 62(5). 1179-1191.
- Calvo E, Sarkisian N. Tamborini CR. (2013). Causal effects of retirement timing on

- subjective physical and emotional health. *Journal of Gerontology Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*. 68(1). 73-84.
- Charmaz, K. (2008). グラウンデッド・セオリーの構築-社会構成主義からの挑戦. (抱井尚子, 末田清子監訳). 京都. ナカニシヤ出版.
 - 地域保健対策検討会(2012). 地域保健対策検討会報告書～今後の地域保健対策のあり方について.
 - Donna M. Wilson, Pedro Palha. (2007). A Systematic Review of Published Research Articles on Health Promotion at Retirement. *Journal of Nursing Scholarship*. 39(4). 330-337.
 - 土堤内昭雄(2010). 高齢者の社会的孤立について-地域に居場所をつくる. *ジェロントロジージャーナル*, No.10-002,1-6.
 - Dow B, Meyer C. (2010). Caring and retirement: Crossroads and consequences. *Int J Health Serv*. 40(4). 645-665.
 - Farquhar JC, Wrosch C, Pushkar D, Li KZ. (2013). The value of adaptive regret management in retirement. *International Journal Aging Hum Dev*. 76(2). 99-121.
 - 湊田英津子(2003). エンパワメントを意図した高齢者の生活条件に関する研究. *日本保健福祉学会誌*. 9(2). 19-29.
 - 船津衛 (1982) . シンボリック相互作用論. 東京：恒星社厚生閣.
 - 藤原靖浩.(2010). 居場所の定義についての研究. *教育学論究* 第2号. 169-177.
 - 藤原佳典(2007). 団塊世代の退職による地域保健活動への影響. *保健師ジャーナル*, 63(2), 108-113.
 - 船山和志, 堀口逸子, 岡利香, 平智子, 斎藤博, 鈴木敏旦, 丸井英二(2008). 横浜市 K 区における、健康づくりに関連した定年前中高年者の定年後の意識について. *厚生指標*. 55(6), 23-27.
 - Gill SC, Butterworth P, Rodgers B, Anstey KJ, Villamil E, Melzer D. (2006). Mental health and the timing of men's retirement. *Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol*. 41 (7). 515-522.
 - Gustman AL, Steinmeier TL.(2002). Retirement and wealth. *Soc Secur Bull*. 64 (2). 66-91.
 - 浜崎優子, 佐伯和子, 塚崎恵子, 城戸照彦(2007). 地方中核都市における高齢者の社会活動と幸福感に関する研究 (第 1 報) —自立高齢者の社会活動の実態—, *北陸公衆衛生学会誌*, 33(2). 80-85.

- ・浜崎優子, 佐伯和子, 塚崎恵子, 城戸照彦(2007). 地方中核都市における高齢者の社会活動と幸福感に関する研究(第2報)ー後期高齢者の主観的幸福感の関連要因ー, 北陸公衆衛生学会誌, 33(2). 86-91.
- ・檜谷美恵子, 住田昌二 (1995). 大都市都心部の居住地類型と典型居住形態 大阪都心部における居住ニーズに関する研究ーその1ー, 都市住宅学 12 号, 67-77.
- ・平野美千代(2011). 日本の「高齢者の社会活動」概念分析, 日本保健科学学会誌, 14(3). 121-128.
- ・廣瀬清人(2011). 生活の質を高める教育と学習. 東京: 新曜社.
- ・堀江正知(2007). 退職と健康. 保健師ジャーナル, 63(2), 114-119.
- ・飯島絵理 (2013). 「男性の地域への参画の促進」の問題点と今後の課題. NWECC 実践研究 第3号, 132-147.
- ・稲葉陽二 (2014). ソーシャル・キャピタル入門 孤立から絆へ. 東京: 中公新書.
- ・Jonsson H, Josephsson S, Kielhofner G. (2000). Evolving Narratives in the Course of Retirement: A Longitudinal Study. The American Journal of Occupational Therapy. 54(5). 463-470.
- ・Jonsson H. (2011). The first steps into the third age: The retirement process from a Swedish perspective. Occup. Ther. Int. 18(1). 32-38.
- ・掛本知里(2002). 退職移行期にある高齢男性のヘルスプロモーションに関わる要因の検討. 東京女子医科大学看護学部紀要. Vol.5. 37-43.
- ・Karen L. Courtney, George Demiris, Marilyn Rantz, Marjorie Skubic. (2008). Needing smart home technologies: the perspectives of older adults in continuing care retirement communities. Informatics in Primary Care, 16. 195-201.
- ・木下康仁(2007). 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究への誘い
- ・木下康仁(2013). グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析技法. 富山大学看護学会誌. 6(2). 1-10.
- ・小辻寿規(2011). 高齢者社会的孤立問題の分析視座. Core Ethics. Vol.7. 109-118.
- ・古谷野亘(2004). 社会老年学における QOL 研究の現状と課題. 日本公衆衛生学会誌. 53(3). 204-209.
- ・厚生労働統計協会編(2014). 国民衛生の動向. 61(9).
- ・越田美穂子, 梶原明美, 川田涼子, 藤田宏江, 河本恵, 蔵満かおり, 大西美智恵 (2012). さぬき市における介護予防サポーターと一般住民の地域に関する意識と地域活動の比較. 四国公衆衛生学会雑誌. 57(1), 109-114.

- ・久保田健市 (2000). 第 3 章 社会的アイデンティティと集団間差別行動：最小条件集団パラダイムによる実験的研究, 筑波大学博士学位論文 (甲第 2229 号), 29-40.
- ・共生社会形成促進のための政策研究事業企画検討会(2006). 高齢者との共生に関する指標. (2014/11/19 入手), <http://www8.cao.go.jp/souki/tomoni/19html/k-3-2.html>
- ・空閑浩人(2006). 高齢者の社会的孤立の問題とソーシャルワークの課題:オランダ・SWOLの「高齢者孤立防止プロジェクト」の活動から. 評論・社会科学 81. 19-47.
- ・熊野道子(2007). 生きがい対象の集中・分散による満足度・ストレス反応の相違—定年前後の男性の場合—. 高齢者のケアと行動科学, 13(1), 32-39.
- ・李相侖, 朴眩泰, 新開省二(2013). 高齢者の社会活動および社会的ネットワークにおける地域差の検討：健康度自己評価との関連をふまえて. 身体教育医学研究. 14: 1-8.
- ・前田信彦(2005). 定年退職への移行と生活の質 (Quality of Life) —ジェンダー比較分析—. 立命館産業社会論集. 第 41 巻第 1 号. 111-131.
- ・ Marlene M. Rosenkoetter, John M. Garris.(1998). Psychosocial changes following retirement. Journal of Advanced Nursing. 27. 966-976.
- ・正木治恵, 山本信子(2008). 高齢者の健康を捉える文化的視点に関する文献検討. 老年看護学, 13(1), 95-104.
- ・松原治郎 (1983). 大都市地域におけるコミュニティ形成. 地方自治/地方自治制度研究会編, 第 433 号, 52-63.
- ・松田晋哉, 筒井由香, 高島洋子(1998). 地域高齢者のいきがい形成に関連する要因の重要度の分析. 日本公衆衛生学会誌. 45.704-712.
- ・三浦展 (2005). 団塊時代を総括する. 東京：牧野出版.
- ・森田智子(2005). 定年退職半年前の公務員の生活習慣. 北海道医療大学看護福祉学部紀要. 12, 61-67.
- ・内閣府(2007). 平成 19 年版国民生活白書・つながりが築く豊かな国民生活. 東京：時事画報社.
- ・内閣府(2012). 平成 24 年版高齢社会白書. 東京：印刷通販株式会社.
- ・内閣府(2013). 平成 25 年版高齢社会白書. 東京：印刷通販株式会社.
- ・内閣府(2014). 平成 26 年版高齢社会白書. 東京：印刷通販株式会社.
- ・中島喜代子, 廣出円, 小長井明美 (2007). 「居場所」概念の検討. 三重大学教育学部研究紀要. 第 58 巻. 社会科学. 77-97.
- ・中村譲治, 柏木伸一郎, 筒井昭仁, 西本美恵子, 川上誠, 松岡奈保子, 岩井梢, 岩男好恵, 守山正樹(2011). Well-being 概念の可視化／言語化の試み. 日健教誌. 第 19 巻. 第 4 号.

342-348.

- ・長徳友美, 極本絵里子, 柴田しおり, 田中理子, 織田初江, 細見博志(2007). 健康づくり推進員活動を行う退職後男性の捉えるサクセスフルエイジング. 金沢大学医保つるま保健学会誌. 31(1). 85-88.
- ・成木弘子(2007). 東京都 A 区の保健事業における中高年ボランティアを形成する過程. 聖路加看護大学博士後期課程博士論文.
- ・西田厚子, 堀井とよみ, 筒井裕子, 平英美(2006). 自治体定年退職者の退職後の生活と健康の関連に関する実証研究. 人間看護学研究. 4, 75-86.
- ・西田厚子(2007). 団塊世代の定年退職に向けた保健活動のあり方. 保健師ジャーナル, 63(2), 130-133.
- ・西村純一(1993). 定年退職期の社会的ネットワークの変化の認知に関連する要因の検討. 社会心理学研究, 8(2), 76-84.
- ・西村純一(1997). 定年退職期のライフスタイルと社会的ネットワークとの関係. 東京家政大学研究紀要, 37(1), 261-269.
- ・岡本秀明, 白澤政和(2006). 農村部高齢者の社会活動における活動参加意向の充足状況に関連する要因. 日本在宅ケア学会誌. 10(1). 29-38.
- ・岡本秀明(2009). 地域高齢者のプロダクティブな活動への関与と well-being の関連. 日本公衆衛生学会誌. 56(10). 713-722.
- ・岡本秀明(2010). 高齢者向けの「社会活動に関連する過ごし方満足度尺度」の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本公衆衛生学会誌. 57(7). 514-524.
- ・奥山正司(1991). 高齢者の生活時間・社会参加と定年退職後の地域・家庭生活. 大原社会問題研究所雑誌, 395. 34-49.
- ・大森純子(2004). 高齢者にとっての健康:『誇りをもち続けられること』・農村地域におけるエスノグラフィーから. 日本看護科学会誌. 24(3). 12-20.
- ・Rosenkoetter MM, Garris JM. (1998). Psychosocial changes following retirement. J Adv Nurs. 27(5). 966-976.
- ・ Rosenkoetter MM, Garris JM. (2001). Retirement planning, use of time, and psychosocial adjustment. Issues Mental Health Nursing. 22(7). 703-722.
- ・ 戈木クレイグヒル滋子(2006). グラウンデッド・セオリー・アプローチ理論を生み出すまで. 東京:新曜社.
- ・ 斎藤雅茂(2010). 大都市高齢者の社会的孤立と一人暮らしに至る経緯との関係. 老年社会科学. 31(4). 470-480.

- ・斎藤太郎(2012). 団塊世代の退職による労働市場への影響. ジェロントロジャーナル, No.11-020,1-7. http://www.nli-research.co.jp/report/gerontology-journal/2011/gero11_020.pdf
- ・佐藤秀紀, 福渡靖(1999). 前定年退職期にある勤労者の定年後の不安感とその対応行動. 厚生指標, 46(3), 19-25.
- ・佐藤秀紀, 佐藤秀一, 山下弘二(2002). 地域在宅高齢者における活動能力と社会活動の関連性. Japanese Society of Human Science of Health-Social Services. 3-15.
- ・Schafer MH.(2011). Health and network centrality in a continuing care retirement community. J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci. Nov.66 (6). 795-803.
- ・瀬沼克彰 (2010). 高齢者の生涯学習と地域活動. 東京：学文社.
- ・消防庁国民保護・防災部・防災課 (2009). 災害対応能力の維持向上のための地域コミュニティのあり方に関する検討会報告書. (2014.11.15 入手). www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/.../02_houkokusyo.pdf
- ・Streuss, A. & Corbin, J. (2004). 質的研究の基礎-グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順. (操華子, 森岡崇訳). 東京：医学書院. (原典出版 1999).
- ・田高悦子, 河野あゆみ, 国井由生子, 藤田俱子, 丸尾智美 (2012). 大都市における一人暮らし男性高齢者の地域を基盤とした自立支援プログラムの開発と有効性の評価. 日本地域看護学会誌, 14(2), 53-60.
- ・竹之内麻美, 今松友紀, 田高悦子, 田口理恵, 臺有桂, 有本梓, 塩田藍(2013). 定年退職後の男性が地域活動への参加を通して地域生活へ移行していく過程. 日本地域看護学会誌. 97.
- ・竹内香織, 磯和勅子, 福井享子(2011). 地域高齢者における主観的幸福感に関連する社会活動要因, 三重看護学誌, 13. 23-30.
- ・玉腰暁子, 青木利恵, 大野良之, 橋本修二, 清水弘之, 五十里明, 坂田清美, 川村孝, 若井建志(1995). 高齢者における社会活動の実態. 日本公衆衛生学会誌. 42(10). 888-896.
- ・田中国夫, 藤本忠明, 植村勝彦(1987). 地域社会への態度の類型化について—その尺度構成と拝啓要因—. 心理学研究. 49(1), 36-43.
- ・徳田直子, 杉澤秀博(2010). 女性定年退職者の退職後の楽しみ・生きがい：現役時代の経験との関連について. 老年学雑誌. 創刊号. 39-54.
- ・東京市町村自治調査会(2012). 高齢者の社会的孤立の防止に関する調査報告書. 1-37.
- ・宇佐見和哉, 笹原信一郎, 吉野聡, 友常祐介, 羽岡健史, 松崎一葉(2010). 定年退職を控えた地方公務員における職業性ストレス、ストレス対処能力、精神的健康度の特性と関連に

ついでの実証研究. 厚生指標. 57(7), 28-33.

- ・ 若林満, 松浦いね, 林文俊(1989). 定年退職者の在職中の経験と退職後の生きがいに関する研究(Ⅱ)－退職後の生きがいは何によってきまるか－. 労務研究, 42(12), 2-12.
- ・ Wythes AJ, Lyons M. (2006). Leaving the land: An exploratory study of retirement for a small group of Australian men. Rural Remote Health. 6(3). 531.
<http://www.rrh.org.au/articles/subviewnew.asp?ArticleID=531>
- ・ 山本則子, 萱間真美, 太田喜久子, 大川貴子.(2005). グラウンデッド・セオリー法を用いた看護研究のプロセス. 東京: 文光堂.
- ・ 矢野香代, 近森由江, 広瀬美咲, 山脇優子(2008). 高齢男性の社会参加要因. 川崎医療福祉学会誌, 17(2). 437-443.
- ・ 安田節之(2007). 大都市近郊の団地における高齢者の人間関係量と地域参加. 老年社会科学. 28(4), 450-463.
- ・ 財団法人年金シニアプラン総合研究機構(2012). 第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査～サラリーマンシニアを中心として～. (2012/5/6 入手), http://www.nensoken.or.jp/pastresearch/pdf/h23/H_23_01.pdf
- ・ 財団法人東京市町村自治調査会 (2012). 高齢者の社会的孤立の防止に関する調査報告書. 1-37. http://www.tama-100.or.jp/contents_detail.php?frmId=66